

令和6年度 学校評価のまとめ

山形県立上山高等養護学校

1 アンケート全体から

- (1) 過去2年間と今年度を比較した結果は以下のとおりである。
- ① 生徒の評価は比較的高い評価となっている。ABが90%を下回った項目が四つ見られた。
 - ② 保護者の評価は比較的高い評価となっている。ABが90%を下回った項目が一つ見られた。
 - ③ 職員の評価は比較的低い評価となっている。ABが89%～80%が二項目、79%～70%が二項目、69%未満が一項目見られた。

2 生徒のアンケート結果

- (1) 評価の高い項目…100%の項目をあげます。
- ・設問10「社会や学校のマナー・ルールを守っている」
 - ・設問12「職業科の学習や現場実習で働く力が身についてきている」
 - ・設問16「寄宿舎の先生は自分のことをわかってくれる」
 - ・設問17「寄宿舎での行事や余暇活動は充実している」
 - ・設問18「洗濯や掃除など身の回りのことができるようになってきている」
- その他、過去3年間と比較すると、設問7、13は、年々伸びが見られる。
- (2) 評価の低い項目…90%未満の項目をあげます。
- ・設問 1「自分にとって学校生活は充実している」
 - ・設問 6「気軽に相談できる先生がいる」
 - ・設問14「地域のために役だったり、地域の人と関わったりして活動することができた」
 - ・設問15「自分にとって寄宿舎生活は充実している」
- (3) 昨年度より評価が下がった項目…上記(2)以外の項目をあげます。
- ・設問 4「清潔面や身だしなみが身についている」
 - ・設問 8「自分は好きなことや得意なことがある」
- 二つの項目とも、昨年度より評価が下がったものの95%以上の高い評価となっている。
- (4) 自由記述

「悩み事や心配事を相談できる友達ができたことがうれしかった。」「就労に向けて自分にまだ成長できる部分を教わり助かりました。」など、プラスの面の記載が見られた。一方「自分はどうしても通学生になりたい気持ちがある。」「受けたアドバイス（コミュニケーション）を行動するのに困っている。」等、今後も注意深く見守り、適切な支援を検討していかなければならないとの意見もあった。

3 保護者のアンケート結果

- (1) 評価の高い項目…100%の項目をあげます。
- ・設問14「お子さんにとって寄宿舎生活は充実している」
 - ・設問15「寄宿舎指導員はお子さんのことを理解して接している」
 - ・設問16「寄宿舎での行事や余暇活動は充実している」
 - ・設問17「お子さんは身の回りのことができるようになっている」
 - ・設問18「寄宿舎は、お子さんの舎での様子を十分に知らせている」
- 設問14については生徒の評価との乖離が見られる。

(2) 評価の低い項目…90%未満の項目をあげます。

- ・設問 2 「お子さんは、自分の目標に向け、考えたり行動したりしている」

(3) 昨年度より評価が下がった項目…上記(2)以外の項目をあげます。

- ・設問 1 「お子さんにとって学校生活は充実している」
- ・設問 5 「お子さんは、安心・安全な学校生活を送っている」
- ・設問 12 「地域に開かれた学校になっている、生徒達は地域と関わって活動している」

(4) 自由記述

「学生生活、舎での生活は子供の成長に大きな働きかけをしていただけると感じております。」、「いつも子供のことを一番に考え、指導していただきありがとうございます。」などプラスの意見をいただいた。反面、「校則が厳しすぎる。もっと生徒の自主性に任せてもいいと思う。」等の意見もいただいた。いただいた意見を参考にしながら新しい校則について、生徒会と一緒に見直しを進めています。

4 教職員のアンケート結果

(1) 評価の高い項目…100%の項目をあげます。

- ・設問 2 「生徒は自分の目標に向け、考えたり行動したりしている」
- ・設問 10 「生徒や保護者の相談に耳を傾け、ていねいに対応している」
- ・設問 22 「自立に向けた生活指導を実践している」

(2) 評価の低い項目…90%未満の項目をあげます。

- ・設問 12 「センター的機能など地域に貢献している。地域に開かれた教育課程が実施されている」 (77%)
- ・設問 16 「教育実践の悩み事等を気軽に相談できる」 (87%)
- ・設問 17 「働きやすい職場になっている」 (73%)
- ・設問 19 「教材研究や担当業務を行う時間が確保されている」 (67%)
- ・設問 21 「寄宿舍での行事や余暇活動は充実している」 (89%)

(3) 昨年度より評価が上がった項目

- ・設問 4 「一人一人の特性に応じた生徒指導、生活指導をしている」
- ・設問 18 「生徒の成長や担当業務の達成によって働きがいを感じる」

5 まとめと考察

(1) 生徒が明るく、元気に関りを合って学習・生活できるような安心・安全な学校をつくる

○多くの生徒は、学校生活や寄宿舍生活に充実感を得ている。学級担任や舎担当が中心となり、関係者と連携し、生徒の様子に気を配り情報を共有し支援に当たってきた結果であると考ええる。

▲一部の生徒が学校生活や寄宿舍生活に充実感を得ることができないでいる。また、自分の悩み等を相談できないでいる生徒もいる。今後、そうした生徒の様子に注視しながら、主任会を中心に情報を共有し、組織的かつ積極的な改善を図っていきたい。

(2) 適切な教育課程の下、指導・支援の充実を図り、生きる力を育む授業を推進していく

○今年度も生徒や保護者からは全体的に高い評価を得ている。これは「傾聴と共感」の教職員の姿勢について、全員で継続して共通理解を図ってきた結果であると考ええる。

▲教職員の評価が全体的に低くなってきている。これはめざす学校像の「IV 働き方…」に関わる評価項目「教育実践の悩み事等を気軽に相談できる」「働きやすい職場になっている」「教材研究

や担当業務を行う時間が確保されている」とも関連付いていることが考えられる。個々の専門性を高めるとともに、協働性を高めていくことで、指導・支援の充実が図れるよう努めていきたい。

(3) 保護者、地域、関係機関等と連携し、生徒の就労の実現をめざす

○保護者と学校の連携については全般的に高い評価を得ている。生徒に関わって連絡帳や電話等で密に連絡を取り合ってきたことで、共通理解に立った支援につながっていると考える。

○関連機関等と学校の連携についても高い評価が続いている。特に事業所とは実習や事業所対象の学校説明会など、信頼関係を大切にしながら進路指導を進めてきた結果であると考えている。

▲全般的に地域とのつながりが感じられないと感じる傾向が見られる。校舎改築に伴い教育活動への制限が多くなってくることが予想される。本校にとっての地域は、学校所在地と居住地の両者があるが、まずはこの学校のある地域の中で何ができるか吟味していきたい。

(4) 働き方改革の推進、同僚性の向上を通し、働きやすく、働きがいのある学校をめざす

▲全体的に評価が下がっている。特に働きやすい職場づくりと教材研究や担当業務を行う時間の確保が課題となっている。職場環境における課題や業務分担の負荷など、詳細な分析を進め課題改善に努めていきたい。

(5) 自由記述について

生徒や保護者の方からも肯定的な意見が多かった。生徒からは、友人関係の充実や進路に関わる学習、美術、保健体育に達成感を感じているという意見があった。保護者からは、生徒が生き生きと学校に通う様子や成長する様子へ満足しているとの意見をいただいた。

課題としては、生徒から校則に関わって守ってない人への不満や校則の変更を希望する意見があった。校則については生徒会で協議し、その結果を受けて校則の改定を検討していく予定である。生徒とともにより良い学校生活をつくっていけるよう努めていきたい。また、それ以外にも個々の学習や進路に関わる課題があげられた。個々の課題について、一人一人の悩みに寄り添いながら解決につなげられるよう努めていきたい。

教職員からは、「勤務1年目の方への親切的な職場づくり」「生徒のルールや服装への共通確認」「『職場の教養』の利用への疑問」「寮務主任と分掌部の兼務の困難」「新学習指導要領の理解不足」など具体的な課題についての意見があった。これらについても今後対応の必要性を検討していきたい。